



人権・男女共同参画セミナー『男女共同参画の地域作り』

7月18日(木)古牧公民館において「人権・男女共同参画セミナー」が開催されました。昨年同様に古牧12地区から区長ほか代表者の皆さん47名の参加をいただきました。

今年度は、長野県立大学グローバルマネジメント学部学科長教授の築山秀夫先生に「男女共同参画の地域作り」と題して講演いただきました。

近年、女性の地域政治参加への重要性が増してきている。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから20年余り、男女格差は未だに大きく、先進国の中では最低レベルである。例えば長野市の自治会長(区長)の女性の割合は目標10%に対して1.5%(2023年)の状況である。地域社会での大きな問題である「人口減少・少子化問題(古牧地区の出生数は10年間で36.7%減)」は、若い人が結婚できる状況にないこと(生涯未婚率女性20%男性30%)も大きな要因の一つであり、地域社会で男女共同参画を進めることがその解決に一定の役割を果たすことが期待できる。そのために①身近なコミュニティから女性な



らではの視点も政治に反映させる必要がある。区や自治会の会長や役員に女性が増えると運営に多様な視点が生まれる。福祉関係が活発になる。若い人の住みたい地域になるなど女性の自治会運営への関わりが地域を変えていく。

②男女が対等に意思決定するために「男女の数の均等」が求められる。不均衡の是正のためにジェンダー・クォーター(割り当て)制という手段を考える必要がある。

講演を通じて、男女共同参画の現状と課題、今後の方向について学ばせて頂きました。

(人権・男女参画部)

中学生ボウリング大会開催!

7月7日(日)古牧地区中学生球技大会がヤングファラオで開催され、75名が参加しました。去年は新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの開催となりましたが、今年も昨年に引き続き、無事開催することができました。

住民自治協議会西澤征防会長のあいさつの後、会長の代理で青少年育成部の牧野体育部長の始球式により開幕となりました。

次頁へつづく



前頁のつづき

ストライクやスペアを取り、大盛り上がりのレーンもたくさんあり、それぞれのレーンでとても楽しそうにボウリングをしている姿が見られました。

1人2ゲームという短い時間ではありましたが、普段からの仲良しのお友達から、久しぶりに顔を合わせるお友達、または初めましてのお友達もいる中、子どもたちの弾ける笑顔が飛び交う良い交流ができていたようでした。

表彰式では、優勝者が「初めて参加したが、優勝できてよかった」「優勝できてとてもうれしかった」といった喜びの声を皆さんの前で伝えてくれました。（青少年育成部）

	男子の部	女子の部
優勝	山崎 咲弥	坂本 結
2位	大島 大志	原 愛実
3位	大熊 岳	宇土 泉竹
4位	千葉 輝	嶺岸 花夏
5位	池永 楓	角田 美海

猛暑の中 はっぴーでレー

7月21日（日）第11回古牧地区世代交流マレットゴルフ大会が東和田運動公園マレットゴルフ場で開催されました。当日は朝から好天に恵まれ、スタートの頃には30℃になっておりました。

今大会の参加者は63名で小・中学生が22名と小・中学生の参加が多く大変盛り上がった大会になりました。

ゲーム方法は、18ホールストロークプレー



で、1チーム3～4人で各ホール毎に移動してから、一斉にスタートして順次18ホールを回り打数の合計で順位が決定します。カップの回りは簡単には入らないようになっており、皆さんカップインに苦労しておりました。

猛暑の中のプレーでしたが、熱中症等で体調を崩す参加者もなく、大会関係者はほっとしておりました。参加者からは、こんな暑い時期ではなく開催日を変更してほしいとの要望もありました。猛暑の中、参加者の皆さんお疲れ様でした。

今大会の入賞者は下記の通りです。

（福祉健康部）

	大人の部	小・中学生の部（男子）	小・中学生の部（女子）
優勝	井原 寿行	小 泉 星之介	大 谷 美 心
準優勝	内 田 秀 雄	岡 田 貫 汰	青 山 亜 実
3 位	塚 田 和 子	青 山 優 真	大 谷 凜

「ながの環境エネルギーセンター」を視察研修

環境美化部では、7月19日（金）長野広域連合が運営している「ながの環境エネルギーセンター」で視察研修を行いました。参加者は各区の環境美化部員9名で、日頃、各家庭や地域から出ているごみなどがどのように処

理をされているのか施設内を見学しました。

研修では、初めにビデオで施設全体の処理の流れ、施設の特徴的な内容について説明を受けて、その後、実際に施設内を処理工程に

次頁へつづく

前頁のつづき

従って説明を受けました。

ごみの処理の方法は、1日約450トンを850℃の熱で処理し、その灰は1500℃の熱で1日22トン进行处理しています。施設を外から見ると煙突から白い煙が出ているように見えますが、これは煙でなく水蒸気とのことです。

また、ごみを焼却する際にでる熱（蒸気420℃）でタービンを回し、電気を作り施設で活用しているとのことです。

この施設は完成して3年目だということですが、安心安全な施設運営と環境への配慮が

されており、施設内は、きれいで臭いもなく、また、階段もなく見学がしやすい施設でした。

1時間ほどの研修でしたが、個人として少しでもごみを減らすにはどうすればよいか考えさせられた貴重な研修会でした。（環境美化部）

未来に向けて突き進む「リサイクルEco Ship」
～エネルギーと資源が循環する施設をめざして～

ながの環境エネルギーセンター



「古牧地区社会を明るくする運動」 住民集会を開催

7月20日（土）「第74回古牧地区社会を明るくする運動」の住民集会が古牧公民館で開かれました。住民自治協議会、保護司会、更生保護女性会、民生児童委員協議会、シニアクラブ連合会、防犯協会、小・中学校PTA会長（6校）などがつくる「古牧地区社会を明るくする運動推進委員会」の主催で開催されました。

この運動は、全国的な取り組みで地域が力を合わせ犯罪や非行を抑止するとともに、罪を犯した人たちの更生について理解と協力を深めて、安全で安心して暮らせる明るい社会を作るものです。

集会では、推進委員会の西澤征防会長のあいさつ、地元市議会議員の金沢敦志議員の祝辞の後に「社会を明るくする運動」の作文入選作として、三陽中学校の2人の生徒による「犯罪」、「あいさつで繋がる人との輪」と題したすばらしい作文発表がありました。

次に、古牧地区保護司会の鳥海祐貴氏から「出所者の就労」と題しての講演がありました。「職親プロジェクト」※注1の企業としての実例を交えてのお話で具体的なわかりやすい内容でした。まずは、出所者の更生支援を行っている企業や団体があるということを知ってほしいとの事。また、最近の犯罪はSNSの発達により特殊詐欺が多いということで振り込め詐欺の受け子など悪いという意識が欠如して犯罪に至るとのことでした。出所者の「仕事・住居・引受人」などきちんと生



保護司 鳥海 祐貴 様「出所者の就労について」

活基盤を安定させることや再犯防止には、社会の人とのかかわりや仲間づくりなどコミュニケーションが大事であり、企業、地域、家庭や学校と一緒に愛情を持って取り組むことが必要と話されました。講演の後の質問では「保護司になったきっかけは？」「教育をどうしているか？」など聴講者からの質問に丁寧に答えていただきました。

最後に、古牧地区シニアクラブ連合会の湯澤角雄会長から「内閣総理大臣のメッセージ」の朗読があり、参加者全員が改めて運動の取り組みについて確認し住民集会が終了しました。

※注1 企業の社会貢献活動と連携し、少年院出院者や刑務所出所者に就労と住居、教育、仲間作りの機会を提供することで、更生と社会復帰を支援するとともに、再犯率低下の実現を目指す。

（総務部）

社会を明るくする運動入選作

「犯 罪」

長野市立三陽中学校 小須田 心

私はSNSやテレビをよく見ます。そこでよく犯罪をする人々が出てきます。私はなぜ良い点がない犯罪に手を染めてしまうのかが不思議でした。そしてその後どのようにして更生するのか気になりました。

犯罪の種類として次に、殺人、暴力、窃盗、脅迫、詐欺、DV(家庭内暴力)があります。人間の社会には沢山の犯罪が横行しています。私もこの間、間近で飲酒運転を見ました。犯罪はすぐそこにあり怖いと思いました。そういう犯罪をする人々には昔から法律で監獄に収容するといった罰をあたえていました。そして、罰をあたえることにより犯罪を減らそうと政府はしてきました。しかし、それだけでは犯罪を防ぐことはできないと歴史が証明してきてます。仮に苦手な人物や不快な状況に遭遇したとしても普通の人はそこで暴力を振るうなどの行動はなかなかしません。しかし、長い期間をかけてネガティブ思考になった人は、そうともいえないのです。例えば、「認知バイアス」のひとつに「敵意帰属バイアス」があります。これは、人々の行動や発言内容を、自らに対する攻撃的なアクションと捉えてしまう心理的傾向を指します。例えば仲が良い友達などと会話をしています。そこで、会話が途切れたとします。普通の心理状況であれば「よくあることだ」と何も気にすることはないが「敵意帰属バイアス」を強く持っている人の場合、会話が途中で途切れた相手に対して「いきなり黙って自分のことを馬鹿にしているのではないか?」「話すに値しない相手だと見くびっているんじゃないか?」というような攻撃的な思考に陥ってしまうのです。このようなネガティブ思考が悪化してしまうと、他人のささいな行動を、敵対行為として判断し、何らかの傷害事件につながることもあります。

次に刑務所出所者などが立ち直り、社会で自立するためには、まず本人たちの強い意志と努力が必要であることはもちろんですが、社会の中で適切な居場所や仕事をもつことが重要です。そこで、保護観察官や保護司、様々な関係機関、団体などが連携し、刑務所出所者などが住む場所や仕事を見つけて地域社会の中で自立し、円滑に社会復帰ができるよう保護観察を始めとする「更生保護」の様々な活動をしています。

私はこれらのことをこれからの人生で無縁にしたいです。犯罪がどんどんなくなるような世の中にしていきたいです。

「あいさつで繋がる人との輪」

長野市立三陽中学校 服部 妃那

「おはようございます。」家の前を通る犬の散歩をしているおばあさんにあいさつをする。これは私の日常であり、我が家の日常でもある。

両親から、「あいさつは大事だ」と小さい時から言われてきて、私も人との関わりはあいさつなしでは始まらないと思っている。何年か前に、家の前をちょっと怖そうな顔をしているおじいさんが通っていた。妹とあいさつしてみたら、それ以来にこにこ笑ってあいさつしてくれたり、おしゃべりしたりする仲になった。近くのコンビニの店員さんも、犬を連れているお姉さんもあいさつをきっかけに、話をする仲にまでなって、どんどん人の輪が広がっていく。

8月13日、私は家族で朝早くから迎え盆でお墓参りに行った。早起きが苦手な私は、少しイライラしていた。早歩きで歩いていると、前からお墓参りを終えた一人のおばあさんが歩いてきた。おばあさんは、「おはようございます。」と私にあいさつしてくれた。私も「おはようございます。」と返した。知らない人だし、もう会う事もないかもしれない。別に素通りもできるのに、あいさつをしてもらったら、さっきまでイライラしていた心が、落ち着いている事に気がついた。

知らない人とのあいさつと言えは、よく山の中ですれ違う人とあいさつを交わすことがあるのを思い出した。なぜ、山であいさつをするのか調べてみたら、意味があるのだと書いてあった。あいさつをすることで、自分の存在を他人に記憶させ、万が一の場合に備える目的もあるとの事。あとは、マナーでもあるし、あいさつから始まり、情報交換のためでもあるということが分かった。

最近では、あまりあいさつをしない社会のように感じる。近所だからと言ってみんながあいさつをするわけでもない。でも、あいさつをすることで、自分のことを覚えてもらったり、こっちもその人の事を認識したりすることは良いことだと思う。

次頁へつづく

前頁のつづき

あいさつで人と人との繋がりが広がっていけば、一人で住んでいるお年寄りは近所の人に気をかけてもらえたり、子どもの見守りや地域の犯罪防止にも繋がって、明るい地域社会が作れるのではないだろうか。

私はこれから、あいさつでより多くの人との輪を広げ、少しでも明るい地域社会を作っていければいいなと思う。

歴史探索

ぐるりあがまち

中村区

水田と水に生命をかけた訴訟

古牧郷土史研究会 伊藤秀樹

中村地籍には北八幡川が流れている。ここから宮前堰や団子堰等で水を引き農業を行った。明治・大正時代には大干ばつがあり、関係する村々や用水組合と水争いが起こり、裁判になったものもある。

明治19年（1886）は6月初旬より雨が50日間降らなかった。この時北八幡川下流の16ヶ村は北高田村の立合いを求めないで、下流側の川底土砂を掘り上げ下流への水量を増やした。この時は調停が入り、北高田村が土砂を元に戻した。

明治21年、下流の16ヶ村が頻繁に一日又は数日おきに土砂を掘り上げた。これに対し北高田村はこの工事を妨害したため下流村々は

裁判に訴えた。判決は「慣行によれば、下流村々は、北高田村に立合いを求めるならば、これらの工事をすることができる。北高田村は拒むことができない。」

大正13年（1926）7月9日より55日間雨が降らなかった。この時は裾花川から水を引いている二つの組合が争った。上流で取水している鐘鑄用水組合と下流で取水する八幡用水組合である。両組合の争いは昭和4年「八幡川へは新しく犀川からも水を引き水量を増やす等」を記した協定書を作成することにより決着した。

水田に水が入らないことは、農家にとって死活問題であった。



(注) 北高田村（中村・北条・五分一・川端・上高田久保地区）

(注) 16ヶ村（西和田・東和田・西尾張部・北尾張部・石渡・南堀・北堀・富竹・小島・金箱・北長池・柳原・布野・村山・長沼穂保・同津野）

(図) 嘉永5年（1852）『長野市誌』参照

地域の福祉を支えていただく協力員さん募集！

古牧地区では、地域の高齢者や障がいをお持ちのみなさんが日常生活で困った時に地域のみなさんのご協力を得ながら家事援助や外出のお手伝いなどを行っています。

多くのみなさんにご利用いただいておりますが、この事業を支えていただく協力員さんを募集しております。ボランティア活動になります但し興味のある方はご連絡ください。

“身近な地域で支え合う、思いやりとやさしさをもった地域づくりを一緒にめざしましょう”

☆活動内容は？

- 福祉移送（古牧福祉自動車「あいりん号」の自動車の運転）
 - ・自宅から医療機関等への通院などのお手伝い、身体への介助は行いません。
- 家事援助（身の回りの家事のお手伝い）
 - ・ゴミ出し、住居等の掃除、草取りなど、身体への介助は行いません。

☆活動時間は？

- あなたの可能な日・時間帯で調整します。（月数回程度です。）

☆資格は必要？

- 年齢や経験は問いません。ただし、福祉移送については一定の条件、講習を受けていただきます。

☆問い合わせ

- 古牧福祉サービスセンターまで（☎ 244-5522）

あなたの力強いご支援をお待ちしております！



しゃばえんびつ



今や人生100年時代…健康で長生きするために

西尾張部区には、ニューハッピークラブと称して、10年前から高齢者を対象に健康体操を実施している独自のクラブがあります。私もクラブ発足時から10年間、毎月2回参加してクラブの皆と健康体操を主に脳トレやゲームをしながら楽しいひと時を過ごしています。来年は、75歳、後期高齢者と言われる世代、まだまだ頑張れる世代と思いつつ体力の衰えはひしひしと感ぜられる今日この頃。しかしながら、健康体操のある日には、不安もなく公会堂へと足を進めていくことが不思議でならない。本音は、家族や地域の人たちに迷惑にならないように自分自身の健康を考えての行動と思っています。

ニューハッピークラブは、毎月第1及び第3金曜日の10時から1時間半程度公会堂において開催され、高齢者の区民であれば、誰でも自由に参加できるクラブです。今後もニューハッピークラブに積極的に参加して、認知症や介護生活にならないよう健康で毎日を過ごしたいものです。（林 俊己）



9月から10月までの主な行事実施日のお知らせは回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和6年8月1日現在

11,859 世帯

26,040 人

（男 12,894人 女 13,146人）

■発行所 古牧地区住民自治協議会
（電話259-8359・FAX219-1057）
（E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp）

■発行者 西澤 征防
■編集 ぷらネットこまき編集委員会
■印刷 (有)小池印刷



HP
ご覧ください